

## シリアルナンバーとライセンスキーについて

## - シリアルナンバーとライセンスキーの違いはなんですか？

シリアルナンバーは製品を購入すると発行される、アルファベットと英数字から構成されている「M1234567890」のような文字列です。これはライセンス証書に記載されています。

シリアルナンバーは、ライセンスポータルやファイルコネクトを利用する場合に必要なようになります。

ライセンスキーは、製品を有効化するために必要な「00-0000-0000-000000」のような数字文字列でライブアクティベーションキーともいいます。Backup Exec 12 のライセンスキーは、ライセンス証書に記載されています。

各種エージェントやオプションに Windows システムエージェントなどが付属している場合には、複数のライセンスキーが提供される場合もあります。

## ボックス製品について

## - ボックス製品を購入した後からサポートを別途購入できますか？

ボックス製品購入後ではサポートを購入することができません。ボックス製品でサポートが必要な場合は、サポートが付属したサポートバンドル製品をご用意しておりますので、そちらをご購入ください。

## - ボックス製品に付いたサポートサービスは、製品のアップグレード権利は付いていますか？

ボックス製品の場合でも通常のライセンス製品と同じく製品のアップグレード権利が付属します。

## - ボックス製品にサポートがバンドルされている製品がありますが、1 年後の更新はどのようにしたらよいのでしょうか？

1 年後のサポート更新は、エクスプレスプログラムまたはリワードによるサポートサービスライセンスの購入にて更新が可能です。

## - ボックス製品の Backup Exec 11d を持っていますが、Backup Exec 12 のボックス製品に移行することはできますか？

ボックス製品のバージョンアップグレードは用意されていないため、ボックス製品への Backup Exec 12 には移行できません。しかし、アップグレードライセンスプログラムの Backup Exec 12 を購入することによって Backup Exec 12 のライセンスへアップグレードすることが可能です。

## - メンテナンス付属ではないボックス製品を持っているのですが、もし、最新のビルドが必要になった場合の入手方法を教えてください。

Backup Exec 12 において、製品がアップデートされ最新ビルドが必要になった場合には、FileConnect (<http://fileconnect.symantec.com/>) から入手することができます。メンテナンスが付属していないボックス製品の場合、シリアルナンバーが提供されていないので、カスタマケアにご連絡いただければ FileConnect へアクセスするための一時利用シリアルナンバーをご提供します。

その上で、最新ビルドをダウンロードしてください。(4月15日現在、CDにて提供しているビルドが最新になっております。)

## 以前のバージョンの Backup Exec との混在環境について

### – メディアサーバーが Backup Exec 11d の環境で Backup Exec 12 のエージェントは利用できますか？

Backup Exec 12 のエージェントを Backup Exec 11d など、以前のバージョンのメディアサーバーにて利用することはできません。Backup Exec 12 のエージェントを利用したい場合にはメディアサーバーもアップグレードする必要があります。

### – 古いバージョンの Backup Exec 環境にエージェントを追加導入したいが、古い Backup Exec のライセンスを購入できませんか？

旧バージョンの Backup Exec のライセンス販売は、オプション、エージェント類も含め、Backup Exec 12 のリリースに伴い終了しております。そのため、旧バージョンの Backup Exec のエージェントを追加購入することはできません。しかし、全てのシステムを Backup Exec 12 へアップグレードすることを前提とした場合で、すでに旧バージョンの Backup Exec をご使用中のお客様に限り、一時的な措置として、Backup Exec 12 のエージェントやオプションの購入を行って旧バージョンのエージェントやオプションを利用することが可能です。

また、11d Build 7170 以外をご利用中の場合には、Backup Exec 12 ライセンスキーをそのまま利用することができません。弊社カスタマケアにご連絡の上、旧バージョンのライセンスキーを入手する必要があります。

ただし、以下の制限事項がありますので、ご注意ください。

- Backup Exec 10.0、10d、11dの環境で運用中のお客様がライセンスを追加したい場合に限りです（新規にBackup Execの環境を構築される方には適用されません。Backup Exec 12で構築してください）
- 最終的にBEWS12にアップグレードいただくことを前提とします。
- 今回のBEWS12にて追加されたエージェントなど、ご利用のBackup Execに存在しないオプションやエージェントはご利用いただくことはできません。
- ボックス製品に関しては、販売店様の在庫がなくなりしだい販売終了となります。ボックス製品の販売終了後も同様に、旧製品に相当するBackup Exec 12のボックス製品をご購入いただくことで利用いただくことが可能になります。（注意事項、前提条件共にライセンス製品の場合に準じます）
- 加えて前提条件として、「シマンテックがサポートを提供している期間が終了していないこと」、「カスタマケアでライセンスキーを取り扱うことが可能なこと」が条件となります。
- Backup Exec 10dのContinuous Protection エージェント(CPA)/Continuous Protection Server(CPS)についてはこの措置の対象外です。CPA/CPSのライセンス追加したい場合は、全てのライセンスをアップグレードしていただく必要があります。
- Backup Exec 12では、IDRおよびAOFOが本体およびWindowsシステムエージェントに同梱されたため、個別のエージェント、オプションの販売がありません。IDRおよびAOFOを追加で購入したい場合にはWindowsシステムエージェントをご利用ください。  
この場合、カスタマケアに連絡し、古いバージョンに利用するライセンスキーを入手する場合に“AOFO”あるいは“IDR”を利用したい旨をご連絡ください。
- Backup Exec 12のDPMエージェントについては後継製品がありません。

エージェント/オプション	購入すべきライセンス	ライセンスキー
<p>既存の Backup Exec 10/10d/11d 環境に追加のエージェントやオプションを導入したい場合。</p> <p>例：顧客はすでに1つの Backup Exec 10d Exchange エージェントを持っており、さらに追加で2台目の Exchange エージェントをインストールしたい。</p>	<p>Backup Exec 12 の対応するエージェントやオプションを購入</p> <p>例：Backup Exec 12 Exchange エージェントを追加購入</p>	<p>既存の 10/10d/11d※ ライセンスキーを再使用</p> <p>例：既存の Backup Exec 10d Exchange エージェントのライセンスキーを使用</p> <p>*顧客はインストールメディアとして利用中の 10/10d/11d CD 使用する必要があります。</p>
<p>新規でエージェントやオプションを Backup Exec 10/10d/11d の環境に追加したい場合。</p> <p>例：顧客は、Backup Exec 10d を利用中であるが、今までに Exchange エージェントを購入したことがないが、今回新しく Exchange エージェントを導入したい。</p>	<p>Backup Exec 12 の対応するエージェントやオプションを購入</p> <p>例：Backup Exec 12 Exchange エージェントを追加購入</p>	<p>カスタマケアに連絡の上、古いバージョンのライセンスキーを入手する必要があります。</p> <p>例：Backup Exec 10d Exchange エージェントのライセンスキーをカスタマケアから入手</p> <p>*顧客はインストールメディアとして利用中の 10/10d/11d CD 使用する必要があります。</p>

・お客様は、既存の Backup Exec 12 より前の環境にエージェントやオプションを追加することができます。また、前のバージョンを一次利用する場合の前提条件として、「シマンテックがサポートを提供している期間が終了していないこと」、「カスタマケアでライセンスキーを取り扱うことが可能なこと」が条件となります。

・カスタマケアは Backup Exec 8.x のキーは取り扱えません。10.x、11d のキーは カスタマケア経由で取り扱うことができます。(2008年3月現在)

※ このうち、12 のライセンスキーは 11d build7170 のメディアサーバーで認識することが可能です。したがって、11d build7170 のメディアサーバーを利用しているときにはカスタマケアからライセンスキーを入手する必要はありません。

#### IDR オプションのバージョンアップグレードについて

Backup Exec 12 より、本体および Windows システムエージェントに標準機能として提供されているため、基本的にバージョンアップグレード及び保守更新を行う必要はございません。

しかしながら、お客様のご要望に応じて Windows システムエージェントとしてご利用いただくことも可能です。

たとえば、お客様の運用システムにおいて、新規もしくは既存のリモートサーバーをバックアップ対象として追加する場合などに、Windows システムエージェントとしてバージョンアップグレード可能です。

## AOFO のバージョンアップグレードについて

Backup Exec 12 より、本体および Windows システムエージェントに標準添付されたため「メディアサーバー本体に AOFO を適用する場合は、基本的にアップグレード 及び 保守更新を行う必要がございません。

しかしながら、前述の IDR オプションと同様、バックアップサーバー本体で利用していた AOFO に関しても「Windows システムエージェントへのアップグレード」も可能です。また、お客様のご要望に応じて下記の場合についても、Windows システムエージェントへアップグレードし、ご利用いただけるようになっております。

- ・AOFO をバックアップ対象となるリモートサーバー用としてご利用いただいている場合
- ・お客様の運用システムにおいて、新規 もしくは 既存のバックアップ対象となるリモートサーバーを追加する場合

### Backup Exec 12 の環境で Backup Exec 11d のエージェントは利用できるのでしょうか？

可能ですが、Backup Exec 12 の新機能は利用できません。できるだけ早くすべてのエージェントを Backup Exec 12 の環境にアップグレードすることをお勧めします。

また、Backup Exec 11d build7170 以外のバージョンのエージェントおよびオプションは使用できません。

## ライセンスアップグレードについて

### Backup Exec 12 にアップグレードするには、費用がかかりますか？

Backup Exec の保守契約を結んでおり、有効な保守契約期間内のお客様は、Backup Exec 12 for Windows Servers を無償でご利用可能です。

Backup Exec をご利用中で、保守契約を結んでいないお客様はバージョンアップグレードライセンスをご購入いただく必要がございます。

### どのバージョンからバージョンアップグレードライセンスを利用できるのでしょうか？

Backup Exec 8.x、9.x、10.0、10d 等、全ての旧バージョンからのアップグレードにバージョンアップグレードライセンスが利用可能です。

### Backup Exec System Recovery からアップグレードできますか？

Backup Exec System Recovery からのアップグレードはできません。

### 競合製品アップグレードライセンスの購入対象となる競合製品は何でしょうか？

競合他社製品とは、Backup Exec ソフトウェアと同等の機能、またはその一部の機能を提供する市販製品を指します。

例) BakBone Software 社 NetVault 製品

CA 社 BrightStor (ARCserve) 製品

EMC 社 NetWorker 製品 など

オペレーティングシステムにあらかじめ無償で含まれるバックアップ機能やフリーソフトウェアなどは除きます。上記以外の製品からのアップグレードを希望する場合には弊社までお問い合わせください。

### 競合他社製品からのアップグレードの場合、ライセンスの考え方が異なる場合や、存在しない場合にはどちらに合わせるのでしょうか？

他社製品からのアップグレードライセンスとして設定されていないエージェント、オプションをお使いいただくには、通常のライセンスをご購入いただく必要があります。競合他社製品とのライセンス体系の違いで購入するライセンス数が異なる場合、Backup Exec のライセンス体系に従い、必要な数のアップグレー

ライセンスを購入いただく必要があります。

競合他社製品からのアップグレードライセンスは通常の価格より約 25%割安に設定されています。

- 10d より古いバージョンの Windows リモートエージェント(CAL)をアップグレードすると、SYMC BACKUP EXEC AGENT REMOTE FOR NETWARE SERVERS 12.0 というライセンスも同時発行されますが、これは何ですか？

日本以外の国では、以前の Remote Agent for Windows Servers(CAL)は NetWare 版のリモートエージェントも同梱されておりました。そのため、アップグレードした場合には同時にこのライセンスも提供される仕組みになっております。しかし、このエージェントは日本国内ではサポート及びリリースがされておられません。利用しないようお願いします。

#### メンテナンス/サポートサービスの購入について

- 基本ライセンスとオプションやエージェントの購入時にベーシックメンテナンス/エッセンシャルサポートなどのように別々のメンテナンス形態といった購入は可能ですか？

一つのシステムに対して一つのサポート形態のみとなります。したがって、すべてエッセンシャルサポート、あるいはベーシックメンテナンスを購入する必要があります。

全てのメンテナンス/サポートサービスは、Backup Exec 基本ライセンスにてメンテナンス/サポートサービスを保持していることが前提となります。オプションやエージェントのみでメンテナンス/サポートサービスを保持していたとしても、基本ライセンスのメンテナンス/サポートサービスを保持していない場合は、あらゆる有償サポートサービスを受けることはできません。

また、オプションやエージェント側のみはメンテナンス/サポートサービスを保持していないなど、同一システム内でメンテナンス/サポートサービスの購入レベルが異なる場合、お問い合わせ内容によっては有償サポートサービスをご提供できない場合がありますので、メンテナンス/サポートサービスを購入する場合には、基本ライセンス用だけでなくその他のオプションやエージェント用のメンテナンス/サポートサービスも一緒に購入することを推奨します。

※ボックス製品の場合にはメンテナンス/サポートサービスを別個に購入することができませんので、特にご注意ください。

- たとえば、まずエッセンシャルサポートを今年買ったとしたら、来年の更新時には必ずエッセンシャルサポートを購入しなければならないのでしょうか？ベーシックメンテナンスに変更できないのでしょうか？

1 年後の更新時にエッセンシャルサポートまたはベーシックメンテナンスの選択をしていただくことができます。

## Backup Exec 12 for Windows Servers/Windows Small Business Server について

- Backup Exec 12 for Windows Servers を、Microsoft Windows Small Business Server にインストールして利用することはできますか？

可能です。

- Backup Exec 12 for Windows Small Business Server を Microsoft Windows Server にインストールして利用することはできますか？

できません。Backup Exec 12 for Windows Small Business Server は Microsoft Windows Small Business Server 専用で、通常の Windows Server にインストールして使用することはできません。

- Backup Exec 12 for Windows Servers のオプションは Backup Exec 12 for Windows Small Business Server のメディアサーバーにて利用することはできますか？

以前の Backup Exec for Windows Small Business Server では、専用のエージェント、オプションを利用しなければなりませんでした。Backup Exec 12 for Windows Small Business Server では、専用オプションおよびエージェントは廃止になりました。

Backup Exec 12 for Windows Small Business Server は、CASO と SSO を除いてすべての Backup Exec 12 for Windows Servers のエージェントとオプションを利用することが可能です。

- Backup Exec 12 for Windows Small Business Server Standard Edition と Premium Edition の違いは何ですか？

それぞれのメディアサーバーに違いはありませんが、利用できる機能に違いがあります。

Standard Edition の場合、以下の機能が提供されています。

- Exchange Server エージェント
- Intelligent Disaster Recovery オプション
- Desktop and Laptop オプション
- Advanced Open File オプション

対して Premium Edition は以下の機能が提供されています。

- Exchange Server エージェント
- SQL Server エージェント
- Intelligent Disaster Recovery オプション
- Desktop and Laptop オプション
- Advanced Open File オプション

- Backup Exec 12 for Windows Small Business Server Premium Edition は Microsoft Windows Small Business Server Standard Edition にはインストールできますか？

Backup Exec 12 for Windows Small Business Server Premium Edition は、Microsoft Windows Small Business Server のいずれの Edition (Standard および Premium) にインストールすることが可能です。

同じく、Backup Exec 12 for Windows Small Business Server Standard Edition もいずれの Microsoft Windows Small Business Server の Edition (Standard および Premium) にインストールすることが可能です。

## Continuous Protection Server (CPS)について

- **Continuous Protection Server (CPS)とは何ですか？また、どのような場合に必要ですか？**  
Continuous Protection Server (CPS)はディスクベースの継続的なバックアップを実現するためのオプションです。  
CPS のライセンスは Backup Exec 12 for Windows Servers および Backup Exec 12 for Windows Small Business Server Standard Edition/Premium Edition に無償でバンドルされています。
- **Continuous Protection Server (CPS)にはどのライセンスキーを使用したらよいですか？**  
Continuous Protection Server (CPS)には、Windows システムエージェントのライセンスキーを入力してください。CPS を使用する環境においては、構成上、バックアップ対象サーバー(ファイルサーバー)に対して必ず Windows システムエージェントを購入する必要がありますので、バックアップ対象サーバー(ファイルサーバー)用に購入した Windows システムエージェントと同じライセンスキーを入力していただければ結構です。
- **Continuous Protection エージェント (CPA) のライセンスキーは何処にありますか？**  
Continuous Protection エージェントのキーは Windows システムエージェントのライセンスキーと統合されています。したがって、Windows システムエージェントのライセンス証書にはライセンスキーがひとつのみ記載されています。  
CPS のインストール時には Windows システムエージェントのライセンスキーをご利用ください。

## 各種エージェントおよびオプションについて

- **Windows システムエージェントはどのような場合に必要ですか？**  
Windows システムエージェントは従来の Windows リモートエージェントと Continuous Protection エージェント (CPA)、Advanced Open File オプション (AOFO)、Intelligent Disaster Recovery (IDR) の機能が利用できるエージェントです。  
従来の Windows リモートエージェントと同様に、Backup Exec メディアサーバーにネットワークで接続された、リモートバックアップ対象サーバーごとに必要です。  
また、ディスクベースの継続的保護を実施する場合に、バックアップ対象サーバーごとに必要となります。  
Windows システムエージェントは対象の Windows サーバー毎に必要です。
- **オプションやエージェントには Windows システムエージェントが付属していますが、メディアサーバー上でこれらのエージェント/オプションを使い、ローカルバックアップを行う場合、付属の Windows システムエージェントを別のサーバーの保護に利用できますか？**  
いいえ。Backup Exec 12 では、オプションや各種エージェントに付属している Windows システムエージェントや Linux/UNIX Server リモートエージェントなどを、そのエージェントやオプションから分離して他の Windows サーバーなどに利用することができません。他の Windows サーバーに対するリモートバックアップを行いたい場合には、Windows システムエージェントを別途購入してください。
- **リモート Windows サーバーの合成バックアップを行う場合、どのようなライセンスが必要ですか？**  
合成バックアップを行うには、Advanced Disk-based Backup オプションがメディアサーバーに 1 ライセンス必要です。バックアップ対象のリモートサーバーには Windows システムエージェントが必要です。

- オフホストバックアップを行う場合には、どのようなライセンスが必要ですか？

オフホストバックアップを行うには、Advanced Disk-based Backup オプションがメディアサーバーに 1 ライセンスが必要です。

バックアップ対象のリモートサーバーには Windows システムエージェントが必要です。

(Exchange Server や SQL Server のオフホストバックアップを実施するには Windows システムエージェントの代わりに Exchange Server エージェント、または SQL Server エージェントが必要になります。)

※ハードウェアまたはソフトウェアのスナップショットプロバイダが別途必要になります。

- Central Admin Server オプション(CASO)は全てのメディアサーバーに必要ですか？

いいえ。Central Admin Server オプション(CASO)は中央管理サーバー1 台だけに必要で、管理対象となるメディアサーバーには不要です。

- Central Admin Server オプション(CASO)の管理対象メディアサーバーで、Exchange Server エージェントを使ったバックアップを実施します。Central Admin Server オプション(CASO)でジョブを定義するのに Exchange Server エージェントが必要ですが、中央管理サーバーにもライセンスが必要ですか？

いいえ。中央管理サーバーには、管理対象サーバーで利用する全てのオプションをインストールする必要がありますがライセンスは管理対象のメディアサーバーのライセンスを再利用することになります。ただし、中央管理サーバーにあたるメディアサーバーでエージェントを使用したバックアップジョブを実行する場合には、ライセンスが必要です。なお、Exchange Server エージェント以外のその他オプション、エージェント類も同様です。

- Desktop and Laptop オプション(DLO)のライセンス形式について教えてください。

Desktop and Laptop オプションのライセンスは、保護対象となるデスクトップ PC あるいはノート PC のユーザー数分必要となります。

ただし、Desktop and Laptop オプションは 1 ライセンスで 10 ユーザー分のライセンスとなりますので、保護対象コンピュータ 10 ユーザーにつき 1 ライセンスが必要となります。

また、Backup Exec 12 for Windows Servers の基本ライセンスに Desktop and Laptop オプション 5 ユーザーライセンスが含まれています。

- デスクトップ PC やノート PC のバックアップデータを複数のサーバーに保存する場合には特別なライセンスが必要ですか？

いいえ。Desktop and Laptop オプションのライセンスは保護対象のコンピュータのユーザー数で決まります。バックアップデータの保存先には依存しません。

- 保護したいデスクトップ PC とノート PC が合計 50 ユーザー数分あり、2 台の Backup Exec メディアサーバーでそれぞれ 25 ユーザー数分ずつのバックアップを行います。Desktop and Laptop オプション 10 クライアントライセンスは、いくつ必要になりますか？

Desktop and Laptop オプションは、メディアサーバー毎に必要なですので各メディアサーバーにそれぞれ必要なユーザー数分のライセンスを購入する必要があります。

Backup Exec 12 では、デフォルトで 5 ユーザー分の Desktop and Laptop オプションが含まれていますので、それぞれのメディアサーバーに 2 ライセンスずつ、合計 4 ライセンスの Desktop and Laptop オプションが必要となります。

- Microsoft Exchange Server エージェントのライセンス形式について教えてください。

Microsoft Exchange Server エージェントは、保護対象の Microsoft Exchange Server ごとに必要です。Microsoft Exchange Server エージェントには Windows システムエージェントが含まれているのでメディアサーバーと同一サーバーにインストールされた Exchange Server でも、リモートサーバー上の Exchange Server でも保護可能です。

また、Exchange Server の継続的なデータ保護のためには、Continuous Protection Server を構築する必要があります。

- Microsoft SQL Server エージェントのライセンス形式について教えてください。

Microsoft SQL Server エージェントは保護対象の Microsoft SQL Server ごとに必要です。Microsoft SQL Server エージェントには Windows システムエージェントが含まれているので、メディアサーバーと同一サーバーにインストールされた SQL Server でも、リモートサーバー上の SQL Server でも保護可能です。

- Microsoft SharePoint Server エージェントのライセンス形式について教えてください。

Microsoft SharePoint Server エージェントは、SharePoint Server 環境全体をサポートします。サーバーファーム(分散構成)をとった場合にも、Microsoft SharePoint Server エージェントは 1 ライセンスのみ必要です。Microsoft SharePoint Portal Server エージェントには Windows システムエージェントが含まれています。

- Microsoft SharePoint Server のサーバーファームにサーバーを加えた場合に必要なライセンスは何ですか？

SharePoint サーバー環境の場合、通常 1 台の SQL サーバーが必要になりますが、SharePoint Server エージェントのライセンスには、最低限必要なエージェントのライセンスが含まれています。

サーバーファームへファイルサーバーなどを追加した場合には、サーバー毎に Windows システムエージェントを追加してください。ただし、このサーバーファームにさらに追加の SQL サーバーを加えた場合には SQL エージェントが別途必要になります。

- **Linux/UNIX Server リモートエージェントのライセンス形式について教えてください。**  
Linux/UNIX Server リモートエージェントは、それぞれ Linux および UNIX の保護対象のリモートサーバー1台に対して 1 ライセンスが必要です。
- **Oracle エージェントのライセンス形式について教えてください。**  
Oracle サーバー1 台ごとに 1 ライセンスが必要です。  
Oracle エージェントには Windows システムエージェントと Linux/UNIX Server リモートエージェントが付属していますが、Oracle エージェントをインストールする環境に応じてどちらかの排他利用となります。
- **Oracle RAC エージェントのライセンス形式について教えてください。**  
Oracle RAC エージェントは Oracle Real Application Cluster の各ノードに対して、ノード数分のライセンスが必要です。  
例えば、3 ノード構成の Oracle RAC 構成の場合、Oracle RAC エージェントは 3 ライセンスが必要です。
- **IBM DB2 エージェントのライセンス形式について教えてください。**  
IBM DB2 サーバー1 台に対して、台数分のライセンスが必要です。
- **Microsoft Active Directory エージェントのライセンス形式について教えてください。**  
Microsoft Active Directory エージェントは保護対象となるドメインコントローラサーバー単位でのライセンス数が必要です。  
Active Directory エージェントは、Active Directory で標準的に用意されている復元モードを使用せずに、Active Directory のオブジェクト単位、オブジェクトのプロパティ単位などのきめ細かいリカバリを再起動することなく行えるエージェントです。ドメインコントローラ全体のバックアップ リカバリのみに必要な場合には必ずしも必要ではありません。
- **Mac リモートエージェントのライセンス形式について教えてください。**  
Mac リモートエージェントは、保護対象となる Mac システムの台数分のライセンスが必要です。
- **Lotus Domino エージェントのライセンス形式について教えてください。**  
Lotus Domino エージェントは、保護対象となる Domino サーバー単位でのライセンスが必要です。
- **Enterprise Vault エージェントのライセンス形式について教えてください。**  
Enterprise Vault エージェントは、Enterprise Vault のシステムに必要なサーバー台数分のライセンスが必要です。たとえば、Vault Store、Index、Partition などのひとつのサーバーにおいて、別途 Enterprise Vault に使用する SQL サーバーがある場合には、この SQL サーバーにも EV エージェントが必要になります。  
この構成の場合、EV エージェントは 2 つ必要になります。
- **NDMP オプションのライセンス形式について教えてください。**  
NDMP オプションは NetApp Filer(および、動作確認済み NDMP プロトコル互換デバイス)に接続したテープデバイスへのバックアップおよびリストアを行うことが可能なオプションです。  
NDMP オプションは、Filer からのテープデバイスへの直接接続、Filer から Filer へのバックアップに対応しています。NDMP オプションは NetApp Filer(または動作確認済み互換デバイス)単位でライセンスが必要です。

- **Library Expansion オプションのライセンス形式について教えてください。**  
Backup Exec では標準でシングルドライブを無制限に接続でき、1 台のテープドライブを搭載した 1 台のロボットライブラリ装置 (オートローダーやライブラリ等) が利用可能です。  
Library Expansion オプションは 2 台目以降のテープドライブを搭載するロボットライブラリ装置の各テープドライブ 1 台につき 1 ライセンスが必要です。
- **1 台のテープドライブを搭載した 2 台のオートローダーを使用します。Library Expansion オプションは必要ですか？**  
はい。Library Expansion オプションが 1 ライセンス必要です。  
Backup Exec では標準で、無制限の数のシングルテープドライブと、1 台のテープドライブを搭載した 1 台のロボットライブラリ装置が利用可能です。これを超える場合、総ドライブ数マイナス 1 の Library Expansion オプションが必要になります。
- **SAN Shared Storage オプションのライセンス形式について教えてください。**  
SAN Shared Storage オプションは SAN 環境において複数の Backup Exec メディアサーバーがテープドライブを共有する場合に必要です。  
各 Backup Exec メディアサーバーごとに 1 ライセンス必要となります。
- **SAN 環境でテープライブラリを利用しますが、メディアサーバーは 1 台でテープドライブの共有は行いません。この場合も SAN Shared Storage オプションが必要ですか？**  
いいえ、この場合は必要ありません。
- **SAN 環境において 2 台のメディアサーバーを使用して 10 台のドライブを内蔵したテープライブラリ装置 1 台を共有している場合、Library Expansion オプションは何ライセンス必要ですか？**  
Library Expansion オプションは、テープドライブの数だけでライセンスが決まります。この場合、10 台のテープドライブがあり、そのうち最初の 1 台は標準でサポートされるため、合計 9 ライセンスが必要となります。  
また、SAN Shared Storage オプションがそれぞれのサーバーに 1 ライセンスずつ、合計 2 ライセンス必要となります。
- **SAN 環境において 2 台のメディアサーバーで、5 台のドライブを内蔵したテープライブラリ装置 2 台 (計 10 台のテープドライブ) を共有している場合、Library Expansion オプションは何ライセンス必要ですか？**  
10 ドライブのうち、最初の 1 台だけが Backup Exec サーバーが標準でサポートするため、9 ライセンス必要です。Library Expansion オプションは、テープドライブ数でライセンスが決まります。  
また、SAN Shared Storage オプションがそれぞれのサーバーに 1 ライセンスずつ、合計 2 ライセンス必要となります。
- **Backup Exec 12 for Windows Servers をアクティブ/パッシブ構成の 2 ノードクラスタで利用します。ライセンスはいくつ必要ですか？ (※メディアサーバーがクラスタ化されている前提の構成)**  
Backup Exec 12 をクラスタ環境で利用するためには、アクティブノードにのみライセンスが必要です。  
したがって、2 ノードのアクティブ/パッシブ構成の場合には Backup Exec 12 のライセンスは 1 ライセンスだけ必要となります。  
また、Backup Exec 自体がクラスタ化される場合、どのような構成であっても最低限 Windows システムエージェントが 1 ライセンスは必要となります。(構成により必要数は異なります)

- 上記の構成でそれぞれのノードのローカルディスクをバックアップする場合にはどのようなライセンスが必要ですか？

Windows システムエージェントがローカルディスクをバックアップするノード数の数必要になります。上記の例では Backup Exec 本体のライセンスに加えてローカルディスクをバックアップするために、Windows システムエージェントが 1 ライセンス必要です。

- クラスタ構成のファイルサーバーやアプリケーションサーバーを Backup Exec for Windows Servers でバックアップする場合、ライセンスはいくつ必要ですか？

Backup Exec でクラスタ環境のサーバーを保護するためには、アクティブなノード数だけのライセンスが必要です。

たとえば、2 ノードのアクティブ/アクティブ構成のリモートサーバーを保護する場合には、Windows システムエージェントが 2 つ必要になります。Exchange Server や SQL Serverなどを保護するにはそれぞれ対応するエージェントがアクティブノード数必要となります。

- VMware 利用時のライセンスについて教えてください。

各ホスト OS およびゲスト OS それぞれが全て個別のサーバーとみなされるため、それぞれの OS ごとにライセンスが必要となります。

- ブレードサーバー利用時のライセンスはどのように数えますか？

各ブレードサーバーは全て個別のサーバーとみなされるため、それぞれのブレード 1 台ごとにライセンスが必要となります。

## Backup Exec 製品のサポート終了時期について

- Backup Exec 製品のサポート期間について教えてください。

製品のサポートは以下の二つのフェーズに分かれます。

スタンダードサポート：提供される期間は新バージョン(メジャーバージョン\*)の販売開始後から、該当バージョンの販売終了後 30 ヶ月間が経過するまでです。

提供されるサービスは、

- 新規での問題修正
- 新規の問題回避方法
- コンテンツの更新
- 上記を含むテクニカルサポート

です。

Hotfix/パッチなどの問題修正はシマンテックの判断により提供されます。

パーシャルサポート：スタンダードサポートの終了後から開始し、該当メジャーバージョンのリリース後から、7 年が経過するまでです。提供されるサービスは、

- 既存の問題回避方法(既知の回避方法や、既存の Hotfix/パッチの提供)

です。



スタンダードサポートおよびパーシャルサポートを含む、サポートに関するの詳細は以下の URL から参照可能です。

[http://www.symantec.com/region/jp/techsupp/enterprise/info/Enterprise\\_Tech\\_Support\\_Policy\\_R7.pdf](http://www.symantec.com/region/jp/techsupp/enterprise/info/Enterprise_Tech_Support_Policy_R7.pdf)

この新しいサポートポリシーは Backup Exec 10.0 以降の製品から適用となっております。10.0 より前のバージョンの製品は、以前のサポートサイクルが適用されます。(変更はありません)

各 Backup Exec のバージョン別サポート期間は以下の通りです。

#### Backup Exec 10.0

スタンダードサポート終了日: 2009/5/6 (この日付以降パーシャルサポートとなります)

全てのサポートの終了予定日: 2012/1/18

#### Backup Exec 10d

スタンダードサポート終了日: 2009/5/6 (この日付以降パーシャルサポートとなります)

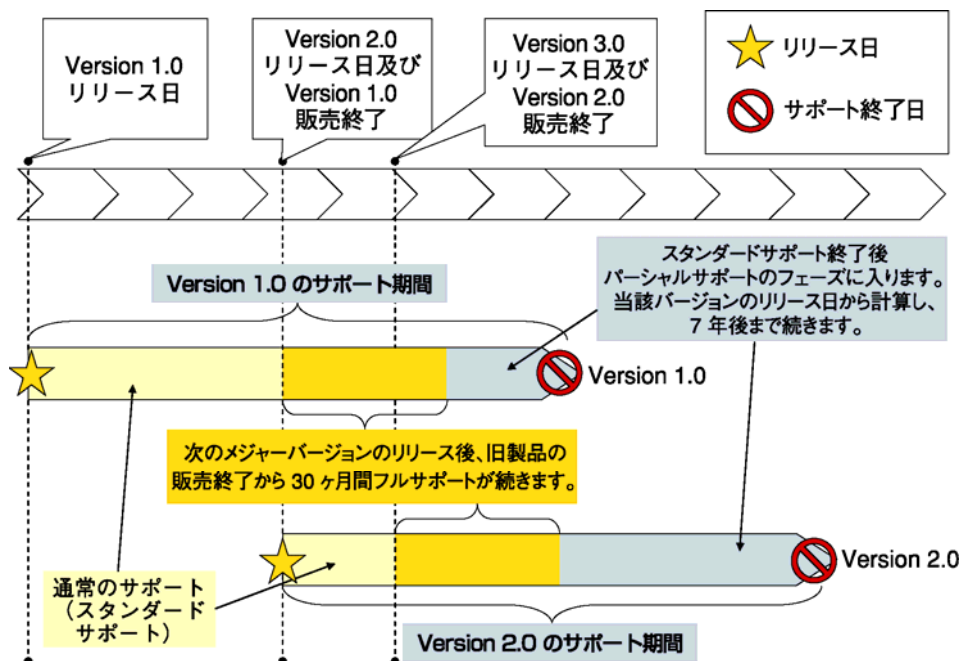
全てのサポートの終了予定日: 2012/1/18

#### Backup Exec 11d

スタンダードサポート終了日: 2011/8/18 (この日付以降パーシャルサポートとなります)

全てのサポートの終了予定日: 2013/11/6

\* メジャーバージョンとは、Version 1.x → Version 2.x などのようにバージョン番号の上位桁が変更になったものです。



※この図は、新しいバージョンリリースと旧バージョンの販売終了が同一の場合です。製品によって異なります。

## 旧バージョンからのアップグレードについて

- 旧バージョンからのアップグレードインストール方法について教えてください。  
バージョン 10d 以降からは直接アップグレードすることによって以前の設定を引き継ぐことが可能です。  
それ以前のバージョンは、Backup Exec 12 へ直接アップグレードすることができません。
- Backup Exec 11d を利用しています。Advanced Open File オプション及び Intelligent Disaster Recovery オプションのアップグレードパスについて教えてください。  
今回のバージョンアップにて Advanced Open File オプション(AOFO)の機能と Intelligent Disaster Recovery オプション(IDR)の機能が本体と Windows システムエージェントに統合されました。  
上記の統合により、Backup Exec 12 では基本機能に AOFO および IDR が提供されておりますので、通常アップグレードの必要はありません。しかしながら、お客様の必要に応じて AOFO や IDR からは Windows システムエージェントへ更新することが可能となります。  
(※IDR をご利用の場合には Backup Exec System Recovery へのクロスグレードライセンスが、Backup Exec System Recovery にございますのであわせてご利用ください。)
- Backup Exec 11d を利用しています。Backup Exec 12 の Data Protection Manager エージェントへのアップグレードパスについて教えてください。  
Backup Exec 12 では、DPM エージェントは販売終了となり、更新元と同等の機能の提供が無いために Backup Exec 12 でのアップグレードパスはございません。